神戸を拠点に活動するコンテンポラリーダンスカンパニー

Ensemble Sonne ダンス公演

緑のテーブル 2017

作品について

原作「緑のテーブル」は、ドイツ表現主義舞踊の泰斗クルト・ヨース振付により1932年に発表され、その後の現代舞踊の発展に大きな影響を与えた現代舞踊史の原点に立つ作品です。この作品から想を得て振付家岡登志子によって創作されたダンス作品「緑のテーブル2017」を上演します。
「緑のテーブル」は戦争に対する強いメッセージ性を持つ作品として「反戦バレエ」とも呼ばれ、今日まで世界各地で数多く再演されてきました。本作はそんな激動の歴史に深く関わり受け継がれてきた舞踊作品の「生命」に思いを馳せ、ダンス作品を継承するための技術と思想はどのようにあり、またどのようにあるべきかを追求し、原作の振付や音楽を一切使わずに創作されました。激動する時代の中で、時を超えても変わらないものとは何か、踊りとは何かを問いかけていくダンス作品です。

公演基本情報

日時　2022年7月22日（金）19:00 開演
7月23日（土）14:00 開演　※受付開始は開演の60分前　※上演時間約60分

場所　中央区文化センター　多目的ルーム　（2022年7月オープン予定）

料金　一般 3,000円 ｜学生2,500円｜当日 一般・学生共3,500円　（全席自由）

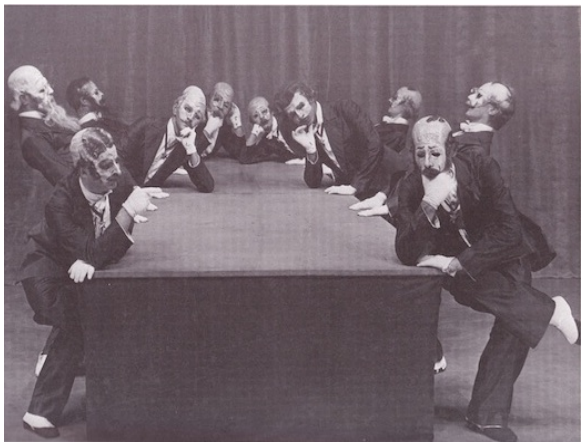
チケット取扱　Peatix　https://greentable2022kobe.peatix.com/
Stores　https://ensemblesonne.stores.jp

WEBサイト　https://www.ensemblesonne.com

公演チラシ　https://www.ensemblesonne.com/_files/ugd/c94d1a_c568b268e0e0461095279e06e957f7d9.pdf

原作について

緑のテーブルを囲んで怪しげな会話をする男たち。激しい言い争いの後、戦いの火ぶたが切られ、殺し合いが始まる。別れ、戦闘、難民、享楽、残されたものたち。様々なドラマが展開する中、骸骨の「死の舞踏」が踊られる。1932年に国際ダンスアーカイヴの公募受賞作品として上演され、その後の現代舞踊の発展に大きな影響を与えた。コンテンポラリーダンスの振付家ピナ・バウシュもフォルクヴァング芸術大学でクルト・ヨースに師事し本作品にも出演している。ドイツ表現主義舞踊に傾倒した若き日の大野一雄にも大きな感動と激励を与えた。



原作からリメイクすることについて

振付家クルトヨースは中世に描かれた「死の舞踏」の絵画から作品の構想を始め創作しています。だれにでもいつかは訪れる「死」について向き合い、ナチスが台頭してくる不穏な時代の流れを感じながら原作のヨース作品は生まれました。
原作には、死神、権力者、難民などの配役がありますが、リメイクするにあたって、原作にはない風の役を設定しています。それは過去から現在へとつながる時の中を吹く風であり、時代の中で体験されてきたことが踊りとなる存在です。
これまで大野慶人さんに風役を担って頂きましたが、今回は戦後神戸でバレエ団を設立し率いて来られた貞松融氏と、振付家・舞踊家の中村恩恵氏に風役を担って頂きます。

新たな出演者について

貞松融氏

中村恩恵氏

1932年生まれの貞松融氏は、戦争の経験から「芸術は人を裏切らない」という思いで舞台芸術の世界に飛び込まれました。その後、神戸でバレエの普及に力を注いでこられ今も尽力されています。偶然にもヨース作品の初演と同じ年に生誕されており「緑のテーブル」と共に同じ時代を歩んで来られた舞踊にとって大切な存在です。今回は風役の証言者として登場して頂きます。

風のパートを踊って頂く中村恩恵氏は、オランダのネザーランド・ダンス・シアターでコンテンポラリーバレエを始め今も日本で活躍されています。今回は舞踏家の大野慶人氏の踊りのパートを踊っていただきます。内面から動き出される踊りは、舞踏、バレエといったジャンルを越えて受け継がれ、限りのない舞踊世界を彩るのではないでしょうか。

今回の上演に向けて

再演が決まった2021年には予測もしていなかった戦争がウクライナで起こり今も続いています。この作品を今の状況下で上演することを考えた時に思い起こされる言葉があります。これまで上演してきた「緑のテーブル2017」作品の冒頭シーンで、戦争を体験し７歳で終戦を迎えた大野慶人氏が「平和な世の中が続くことを祈る為に舞踏を続けてきました」と証言されていました。
今あらためてその言葉を想い心に刻むと共に、一日も早く世界に平和が訪れることを願ってこの作品を上演できればと思います。

ー振付家 岡登志子

キャスト / スタッフ

構成・振付・演出：岡登志子

美術：廣中薫
照明デザイン：岩村原太

特別出演：貞松融
出演：垣尾優、中村恩恵、糸瀬公二、堤悠輔（貞松・浜田バレエ団）、桑野聖子、中根千枝、
舞羽、秋田乃梨子、松村有実、高橋佑紀、野村王雅、岡登志子

舞台監督：大田和司
音響：西川文章
音楽協力：田村ゆう子
衣装：牧和美
制作：アンサンブル・ゾネ、ゾネオフィス
主催：アンサンブル・ゾネ
共催：（公財）神戸市民文化振興財団 中央区文化センター
後援：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、ゲーテ･インスティトゥート大阪・京都
企画協力：大野一雄舞踏研究所、NPO法人ダンスアーカイヴ構想
文化庁「Arts for the future! 2」補助対象事業

Ensemble Sonne アンサンブル・ゾネ

1993年設立。神戸を拠点に活動するダンスカンパニー。ドイツ表現主義で培われたダンスメソッドに基づく日常訓 練を行いながら、国内外から様々なゲストアーティストを迎え、神戸で創作初演、首都圏、他都市へ巡演するスタ イルで緻密で多彩な作品づくりを継続している。

岡登志子(Ensemble Sonne主宰)

ドイツNRW州立Folkwang芸術大学舞踊科卒業。アンサンブル・ゾネ主宰。神戸を拠点にドイツで習得したダンスメソッドを実践しながら、現代を生きる人間に共通する身体を通し、人間の実存を問う作品 づくりを行っている。2014年神戸長田文化賞受賞。2018年KOBE ART AWARD大賞、神戸市文化賞受賞。近作に「2022 空 そこはかとなく 刻々に」(2022)。

『緑のテーブル2017』上演歴

2017年3月 神戸アートビレッジセンターKAVCシアター［初演］
主催：大野一雄舞踏研究所
2018年4月 愛知県芸術劇場 小ホール
主催：アンサンブル・ゾネ、愛知県芸術劇場
2018年9月 ゲーテインスティトゥート/東京ドイツ文化センター
主催：NPO法人ダンスアーカイヴ構想
2019年6月 デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITOホール
主催：アンサンブル・ゾネ

▷トレーラー映像 https://vimeo.com/283234463

▷アーカイブ

http://www.kazuoohnodancestudio.com/common/pdf/DANnews_fixB3.pdf

http://www.kazuoohnodancestudio.com/common/pdf/DANnews12.pdf

お問合せ先

Mail: ensemblesonne@gmail.com
Tel: 0797-38-7335 (担当: 桑野、松村)
Web Site: http://www.ennsemblesonne.com
Facebook: @Ensemble Sonne
Twitter: @EnsembleSonne
Instagram:@ensemblesonne